

2010年9月17日

日本民間放送連盟賞3部門で優秀賞

朝日放送は2010年日本民間放送連盟賞で、CM・技術・放送と公共性の3部門で優秀賞を受賞しました。各部門の詳細は以下の通りです。

<CM部門>ラジオCM第1種(20秒以内)

『優秀』日本製粉 オーマイまぶして焼くだけからあげ粉/楽しいフライパンの世界(20秒)

プロデューサー 野本友恵、立石紀雄 デルクター・コピー 村上正道(ビー・ジー・エム・サービス)

フライパンで卓球の球を打ち合う音、小豆をフライパンに入れて作った波の音、フライパンをたたいて演奏した音で、フライパンの使い方を遊び心いっぱいに出す。そして、「ジュー、ジュー」と、美味しそうにからあげが焼ける音は食欲をそそる。フライパンで焼くだけで簡単に作れることを、音を楽しみ、想像力をかきたてさせながら伝えている。

<技術部門>

『優秀』ローコストARバーチャルシステムの構築

研究・開発担当者 久田 理、川本龍文、長谷川将宏

ビジュアルマーカ方式のAR(拡張現実感)技術を活用し、手持ちマーカオブジェクトに合わせてCGやビデオウォールがリアルタイムで連動表示される、ローコストなバーチャルシステムを開発・実用化した。これにより、特別なハード装置を使わず撮影場所の制約も少ないバーチャル運用が可能となり、番組演出の幅が広がり、テレビ制作技術の高度化に貢献した。

<放送と公共性>

『優秀』追及!終わらない年金問題

実施責任者 藤田貴久、天本周一、南出拓平

2006年に朝日放送の報道によって発覚した国民年金保険料の不正免除問題や、年金保険料の支払い記録が残っていないため年金が減額されてしまう問題は、国会に飛び火し、自公政権崩壊の一因となった。以降、各メディアで年金問題が報じられるが、2009年の総選挙の前後は、他の様々な争点に隠れ、全国的な報道は激減した。しかし一連の年金問題は依然解決しておらず、朝日放送では年金制度や運用形態の矛盾、受給者の実態を浮き彫りにする報道を独自に継続。キー局とローカル局との役割の違いや、匂でないと判断されるニュース素材の扱いなど、様々な問題を孕む中、特に担当記者の執念と意欲が印象に残る実績として評価された。